令和５年度第１回広島市都市デザインアドバイザー会議　会議要旨

１　開催日時

令和５年（2023 年）６月２日（金）９時 30 分～12 時 20 分

２　開催場所

広島市役所本庁舎１４階第７会議室

３　出席者

出席委員（8 名）

田中　貴宏、角倉　英明、今川　朱美、髙田　由美、柏尾　浩一郎、吉田　幸弘、藤井　堅、塚本　梓織

４　議事

(1) 広島駅南口広場の再整備等について（報告）
(2) 基町相生通地区第一種市街地再開発事業について（２回目会議）
(3) 広島城三の丸歴史館新築工事について（２回目会議）

５　公開・非公開の別

公開

６　傍聴者

一般傍聴者　3 名
報道関係傍聴者　3 社

７　会議資料

会議次第、委員名簿、出席者名簿、配席図、議事資料

８　会議要旨

（１）　議事１　広島駅南口広場の再整備等について（報告）

これまでの検討での委員からの意見等を踏まえた最終的な設計内容について報告を行った。

委員から設計について対応を求める意見はなかった。

今後の管理など、引き続き注意してほしい事項については、次のとおり。

ア　擁壁の凹凸デザインについて

・色の濃淡が意図したとおりとなるかは心配であるが、日の当たり具合などで見え方が変化するのは良い。

イ　擁壁の施工中及び完成後の管理について

・コンクリートのひびわれ等が起きにくいよう、コンクリートの品質に注意すること。
・完成後に落書きされた場合は、すぐ消すような管理体制とすること。

ウ　植栽の種類について

・長持ちするよう、環境に適した植栽を選定すること。

（２）　議事２　基町相生通地区第一種市街地再開発事業について（２回目）

１回目の会議での委員からの意見等を踏まえた設計内容について説明を行い、デザイン上の配慮事項に関する提案を受けた。今後の検討事項は次のとおりである。

ア　蛇籠（じゃかご）のデザインについて

・利用者の足や衣服に引っかかることが無いよう注意してほしい。

・蛇籠（じゃかご）の形状、石の種類や積み方を工夫してほしい。
（例：石の種類で色を出す、川の石を詰める、蛇籠（じゃかご）を曲線にする、等）

イ　コンセプト（水と緑）の表現について
・水について、表現の仕方を工夫してほしい。
（例：雁木の使用、プロジェクションマッピングの実施、ドライミストの設置、音や光・風などの五感で水を感じられるような仕組み、等）
・緑について、植栽を工夫してほしい。
（例：四季の表現、事業の新しさの表現、等）

ウ　道路境界の路面デザインについて
・道路とも緩やかな境界となるように、デザインの工夫をしてほしい。

エ　6階オープンテラスのデザインについて
・遊び心のある魅力のあるデザインにしてほしい。建物外観の直線的なデザインと対照させ、起伏や曲線などでテラスのコンセプトを表すことも考えられる。

オ　地区の歴史性（立町御門）の周知について
・広場の名前に入れ込むなど、地区の歴史を感じられる運用面の工夫があってもよい。

カ　広島の新しい立体的な都市軸の契機づくりについて
・この建物が都心の更なる発展につながる立体的な新しい軸のきっかけとなり、都心の高層化、高度利用が景観面でも評価されるような表現ができるなら理想的である。

キ　6階オープンテラスの防犯について
・施錠の管理など、運用面でしっかりと防犯対策をしてほしい。

(3)　**議事３　広島城三の丸歴史館新築工事について（２回目）**
議事内容の説明を行い、デザイン上の配慮事項に関する提案を受けた。今後の検討事項は次のとおりである。

ア　2階ラウンジの広さについて
・広島城天守への軸上でくつろぐスペースの確保や、トイレへの出入りのしやすさなど、見せ方の演出も含めて、2階ラウンジの広さを検討してほしい。

イ　木格子壁のデザインについて
・各壁面共によく見えるので、統一感のあるデザインとしてほしい。
・木格子の経年劣化について、注意して検討してほしい。

ウ　広島城天守への軸の外構デザインについて
・石の種類や配列など、Park-PFI のエリアと一体的に検討してほしい。

エ　夜の見え方について
・Park-PFI のエリアと一体的に、照明計画など検討してほしい。

以下は、会議所掌対象外の意見。
オ　平面計画（１階居室の配置）について
・事務室や職員休憩室、図書閲覧室は北側の窓がある面に配置した方がいいのではないか。

カ　樹木の剪（せん）定・伐採について
・広島護国神社裏の樹木の伐採については、移植も含め、慎重に検討してほしい。

【会議概要】

○田奥都市デザイン担当課長補佐

（開会挨拶、配布資料確認、出席者紹介及び議事説明）

○田中座長

それでは、本日の議事⑴「広島駅南口広場の再整備等について（報告）」の説明をお願いする。

○有木広島駅南口整備担当課長

（議事⑴「広島駅南口広場の再整備等について」の説明）

○田中座長

ただいまの説明に対して、ご意見等あればお願いしたい。

○柏尾委員

この提案に関しては、落としどころとしてうまいと感じている。

幾つか質問をさせていただきたい。まず、型枠の厚さを変えて凹凸感を表現するということで、基準面に対して最大24㎜、つまり最大プラスマイナス48㎜の凹凸差が出るということか。

○有木広島駅南口整備担当課長

48㎜ではなく、二枚重ねで最大24㎜である。

○柏尾委員

承知した。

4ページの写真-2、右側の化粧型枠に対して普通型枠の方がコンクリート色の濃淡がかなり出ているが、この濃淡は何によるものか。

○有木広島駅南口整備担当課長

気泡などにより多少の濃淡が出ていると考えている。

○柏尾委員

ピッチについては同じ方向、水平方向ということか。

○有木広島駅南口整備担当課長

そうである。

○柏尾委員

我々は写真で判断することになるので、この濃淡の差がどれほどのものか、委員間で共通認識を持ちたい。分かりやすい写真や、日塗工の塗料サンプルなどで明度の数値差を示していただきたい。

○有木広島駅南口整備担当課長

濃淡は、今画面上に出している感じであるが、濃淡を数字で示す形になるといいか。

○柏尾委員

大体のコンクリートの濃さについて、日塗工サンプルの無彩色チップの中から示していただくと、委員の皆さんも分かりやすいと思う。

○日向専門員

現地で作成したモックアップは、濃淡を狙って出せるものではないが、このモックアップから、日塗工サンプルの近似値を出し、今後報告させていただきたい。

○柏尾委員

濃淡のコントラストが強いと少し存在感が強くなり過ぎる場合もあるので、濃淡を分かりやすい形で示していただけるとアドバイスなどまたできるかと思う。

○藤井委員

資料に「壁面の劣化具合について」とあるが、このモックアップの写真は、脱型から何か月か時間を置いて汚れを見たものであるのか。

○有木広島駅南口整備担当課長

写真-5 は脱型当初のもので、写真-6 は脱型から 8 か月後のものである。

○藤井委員

脱型して最初は型枠の木材そのままの表面が出るが、その色は時間とともに退化する。実際に一般の方が見る視点となると、道路を隔てて見ることになるので、あまり濃淡の差が目立つとは思えない。12㎜や24㎜の凸凹をつけても離れるとあまり差が見えてこないのではないか。

それと、コンクリートは打って何年か経つと必ずひび割れが入る。ひび割れが入ると、汚れよりもエフロが出てきて、白い石灰みたいなものが表面に出てくる。クラックの方向は、目地とも違い、どういう方向に入るかは予想もつかない。そのクラックからエフロが出てくるので、少し心配である。

また、これだけの大きな壁であるので、落書きされないか、一つ心配である。

○日向専門員

道路を隔てての見え方について、モックアップで離れたところからの見え方の確認をしたところ、濃淡の出方は、太陽が当たるかどうか、その太陽の角度によって変わるという状況であった。しかし、何もないよりは少し濃淡があったほうが良いと考えている。

エフロに関しては、今後、十分に気をつけて施工することが前提ではあるが、施工後もしっかりと確認、観察しながら対応できることをしていきたい。

落書きに関しては、この擁壁は中央分離帯や、道路を隔てたところにあり直接歩道等からアクセスできるところではないが、最近はそういう場所にも落書きされている状況があるので、対策はなかなか難しいが広島駅の一番目立つ場所であるので、落書きされた場合はすぐに消すというような維持管理の対応をとるしかないと考えている。他に、擁壁の下の植栽等により、できるだけ落書きがしにくい状況に持っていきたいと考えている。

○藤井委員

施工の際は、必ず水セメント比の小さい良いコンクリートを打設するように注意いただきたい。悪いコンクリートだと、必ず大きなひび割れが入る。

○今川委員

凸凹のある型枠に打設するとき、コンクリートはしっかりと回り込んでくれるのか。

○藤井委員

逆打ちになるので、確実に 90 度の凹凸がつくかというと必ずしもそうではなく、場合によっては、角がなくなったような格好になることもある。よほど流動性の良いものがあればいいが、なかなかそういうものはない。流動性を得るために水を入れては絶対にいけない。

○今川委員

薬を入れると割れやすくなると聞いたことがある。

○藤井委員

高性能減水剤というものがあるが、エフロは必ず出ると思う。

逆打ちというのは、型枠を上に置いて、下から上にコンクリートを充填するもので、空洞ができ、未充填になることが多い。ただこの 24 ㎜がどれぐらい影響するかは分からない。

○今川委員

一気に打ち込むのか。何回かに分けて打ち込むのか。

○日向専門員

段階を分けて打ち込む予定。ヤードの問題や延長が長いものもあれば、高さもあるので施工計画を立て、段階を分けてやっていく。

24 ㎜の凹凸をしっかりと充填できるかについて、やはりおっしゃられるように確実にできるかどうか心配はあるが、型枠に少しテーパーを付けて少しでもコンクリートが回るようにしたい。当然テーパーを付けると、脱型しやすいということもある。施工性には極力注意する。このモックアップも実際に工事をしている大林組ＪＶで作成しているが、そこでいろいろと検証した結果、この 24 ㎜に決めたので、何とか施工できると考えている。

○吉田委員

デザイン的な見地からの意見であるが、コンクリートに着色はなく、深さは最大で 24 ㎜

で、深さとパターンに種類があるということか。

○日向専門員

コンクリートは着色していない。

擁壁部の厚みの前面を 0 ㎜と設定し、そこからの厚みが最大で 24 ㎜出ており、その厚みを様々に組み合わせ、模様を出している。

○吉田委員

パターンについては、幾何学模様がメインであるか。

○日向専門員

そうである。

○吉田委員

パターンの種類は何種類か。

○日向専門員

施工性を加味して一種類としているが、それを上下に組み合わせることで複数のパターンを作っているように見せようとしている。

○吉田委員

パースで見ると、季節や、西日のときは結構影が出るなど、時間によって、多様な表情を見せてくれるだろう。

2 ページ目のパースで見ると、パターンの型枠は一種類でそれをずらすことによって変化を出すということだが、何か色がグラデーションになっているように見える。駅に近いほうが白く、徐々にグレーの割合が増えているように見えるが、これはパースのせいか。

○日向専門員

はい。色に関しては基本、コントロールができない。

○吉田委員

同じ型枠であれば、遠くから見ると一様な感じになる。

○日向専門員

型枠はパターン化していくが、木製型枠を剥がすので流用はできないと考えている。同じパターンの型枠を沢山作ってそれを組み合わせていくこととなる。

○吉田委員

その型枠のパターンの上下の向きは一様で、それを上下にずらすことによって変化を出すという考え方か。なるほど。三メートル角の正方形であれば九十度向きを回転させたり、上下を逆にすることは考えてはいないか。

○日向専門員

上下の向きは一様で考えている。

○吉田委員

承知した。いずれにせよ、これだけの大きな壁面であるので、こういった繊細な表情はデザイン的には非常に優れたものになるのではないかと期待している。

○今川委員

3ページでパターンを組み合わせているが、下段の中央と右、同じく下段の右から二つ目のパターンは、ほかと少し違う。これは、同じパターンが続くのは面白くないから、一番上の段をカットして使うという工夫がなされているのか。

○今村主任技師

大きい基本パターン図の中から、配置する高さによって上下を切り抜いているものがある。

○柏尾委員

最初、資料のコンクリートのコントラストがかなり強かったので、どれぐらいの色か伺ったが、この8か月でどれぐらい印象の違いがあったか。

○日向専門員

8か月で印象の違いはなかった。汚れがしっかり出ていないという感じである。写真によ

って少し、この写真は左側がちょっと日陰で、右側が日向という状態で撮り方の違いがあるが、受ける印象にあまり変わりはないというのが正直な感想である。

○柏尾委員

最初にお願いした明度の値であるが、総合的に判断し、サンプルで示していただく必要もないと感じた。皆様もこの写真で判断できるということであれば、今後のサンプルの提示はなしでよいかと思う。

○有木広島駅南口整備担当課長

では、色の濃淡を日塗工のサンプルで示すことはしないということで。

○今川委員

本題から外れてしまうが、緑政課が企業から寄附を募って駅前大橋にプランターを置いているが、1回目の会議資料では、端っこのほうにまとめて移動となっていた。このプランターは、最後どこに配置される予定か。

○日向専門員

プランターは、もともと道路と歩道の間の際にあったが、今は一旦工事等で横にずらしている。整備後はもとの歩道と車道の間に戻すということで担当課と調整している。

○今川委員

擁壁の手前の植栽について、植物の種類は今後の検討であるか。

○日向専門員

植物の種類について、枝があるものだと道路上の車両にぶつかって傷をつけてしまうという問題もある。また、水の状態によっては育つものが限られてくるので、この環境にふさわしい植栽を選定していきたい。

○今川委員

現在の広島市内道路の中央分離帯の植栽は、虫の被害を多く受けており、葉がボコボコになるほど卵を産みつけられていたり、白いものが浮いていたりしている状態である。気温が温かいからだと思うが、今回は擁壁の手前になるので、虫の被害に対しても検討をお願いしたい。

○日向専門員

中央分離帯の植栽について、スペースの課題や水の状況により、少し状態が悪いところも見受けられる。植生の状況をしっかりと踏まえ、植樹後も長くもち続けられる種類を選定していきたい。

○田中座長

それでは、皆様から意見を頂けたと思うので、まとめをさせていただく。

一つ目は、擁壁の凹凸について、色の濃淡が意図どおり出るか少し懸念があるが、写真を見る限りは、そこまで大きく外れたものにはならないと考えられること、日の当たり方により表情が変わって見え、シンボルという意味でも良いと感じられることから、このまま進めていただければと思う。

二つ目は、擁壁の施工中や完成後の管理について、コンクリートのひびわれが等の劣化が起きにくいよう、コンクリートの品質に注意して施工することや、完成後に落書きがされた場合は、すぐに消すことができる管理体制となるように、配慮していただきたい。

三つ目は、擁壁前の植栽の選定について、植栽が良い状態で長く保たれるよう、環境に適したものを選定していただきたい。

以上について引き続き配慮いただきたいが、設計上の対応が必要な話は特に無かった。

議事⑴については以上である。

○田中座長

それでは、本日の議事⑵「基町相生通地区第一種市街地再開発事業について（2 回目）」

の説明をお願いする。

○小倉市街地再開発担当課長

前回の会議で中間報告させていただいた時の繰り返しになるが、この再開発事業で建築する建物は、民間の地権者や新しく入居される方の財産となることから、市民の皆様に使っていただく１階と６階のオープンスペースに焦点を当てて御意見をいただきたい。

○事業主体（㈱朝日新聞社不動産業務室企画開発専任部長　筒井氏、㈱竹中工務店大阪本店設計部設計第２部門設計３グループ長　秦氏）

（議事⑵「基町相生通地区第一種市街地再開発事業について（２回目）」の説明）

○田中座長

ただいまの説明に対して、設計方針やデザイン上の配慮事項に関するご提案やご質問等があればお願いしたい。

○今川委員

蛇籠（じゃかご）を使ったベンチのアイデアは非常にいいなと思う。例えば、ゲートパークの椅子の下は全て爆発物などを置くことができないというのがいいと思っていた。ここを使う方はオフィスに勤めている方が非常に多いと思う。女性はストッキングを履いているので、引っかかりを気にする。ゲートパークはツルっとした状態であるが、スケートボードなどで凹んだり尖りが出るとタイツなど引っかかってしまう。その管理はできるか。近くの女学院中高の子も冬は必ずタイツである。

○事業主体（㈱竹中工務店　秦氏）

もっと細かい配慮の中で、蛇籠（じゃかご）の使用部分を見極めていきたい。例えば、座るところについては蛇籠（じゃかご）を止めたり、蛇籠（じゃかご）の足元に低木を配置してスケートボードが近寄りにくくするなどの配慮はできると思う。細かい配慮は様々な点で行っていきたい。

○柏尾委員

広島の原風景を想起させるよう、水・緑・石をデザインに取り入れるという着想は、どれも広島にマッチするものだと思う。この水の表現について、天井部の素材は理解できるが、床面の舗装のパターンはどうだろうか。以前、この都市デザインアドバイザー会議で検討した広島駅の自由通路の改修についても、今回と同様に水の表現として床にラインを入れているが、それが水とはなかなか理解されない状況である。検討される過程で、壁面の流水など、もう少し直接的な水の表現の検討はされたのか。検討をした上で難しかったのか。

○事業主体（㈱竹中工務店　秦氏）

実際に水場を造るかについて検討したが、維持・管理の観点で長く使う、誰でも使うことを考えると、直接的に水を用いるより他にできることがあるのではということになった。人々のために場所を造るということを優先させ、地面を整えている。実際の水としては広島市内に6本の川があるが、ここではその水をさりげなくデザインに組み込みたいと判断した経緯がある。

○柏尾委員

なかなか床面のパターンは水と理解し難い。実際に水場があると、視覚だけでなく聴覚的にも憩いの場の手助けになると思う。もちろん運用や管理面がネックとなるだろうが、可能であればもう一度検討いただき、管理面でも何とかなるという判断ができれば、ぜひ取り入れていただきたい。

○吉田委員

柏尾委員と同じ意見であるが、直接的な水を使わずに水を想起させるというのは、デザインの力であり、ちょっとした工夫で伝わることもあると思う。水をデザインしていると理解したときに大きく意識が変わる、そういう瞬間が非常に重要であると思う。そのきっかけになり得るようなデザインをどうするかは、何か色や形に加えて、音や光というものも十分あると思う。

参考になるか分からないが、表参道ヒルズのエスカレーターのところで超指向性のアルマ

イトスピーカーを使って、自然の音を流していたりする。そういう要素があると、いろいろものが一気に繋がって、ここは広島の水を表現しているのだと伝わるのではないか、そういう小さな工夫は、まだまだこれからできそうであると思う。

基本的な広島らしさの表現については、コンセプトに石だとか、そういうものをプラスしたことにより、コンセプトに深みが増し、デザインもブラッシュアップされたと思う。

石の表現について、広島城の堀の石垣などは相当繊細に積んでいる。蛇籠もよいと思うが、無造作に積むのではなく、こだわりを持った積み方がどこか一か所にでもあると、コンセプトが非常に伝わりやすいと思う。

それと、夜のパースがあったが、６階のオープンする時間には制限があるのか。運用の面の話にはなるが。

○事業主体（㈱朝日ビルディング　駒谷氏）

いろいろな方、夜は大人にも使っていただきたいので、朝から夜までオープンしたい。ただ、夜中まで開けておく必要はないので、例えば、夕暮れの7時、7時30分頃に有人警備が来て、中を確認して、エレベーターを停止させ、施錠する。また朝に開錠するという運営になるのではないか。

○吉田委員

承知した。防犯のことが心配であったので質問した。

○事業主体（㈱竹中工務店　秦氏）

サウンドスケープの件について、先ほどの表参道のように、本件でも、環境音楽や季節のイベントの音を流すことも協議をしている。このような音をさりげなく取り入れ、聴覚的にも水を想起させるということは可能だと考えている。

蛇籠について、最近、身近なものとして様々な場所で使われている。蛇籠の中に大切なものを入れるなどといった観点もあるかと思う。例えば、コンセプトになぞらえて広島の川の石や石畳、そういった記録を未来のために残していくということもできるのではないか。どこまでできるのかを含めて検討していきたい。

○今川委員

広島の計画にはどれも「平和」と「おもてなし空間」ということが書いてあるので、意識していただきたい。

平和について、ひろしま美術館に水があるが、それは被曝された人たちが水を求めたことから、水を絶やさないという考えのようだ。この「水」というキーワードを拡大解釈すると平和に繋がると思っている人も多いだろう。水のイメージを絶やさず、音ももちろんだが、プロジェクションマッピングなどにより、いつも水・平和を感じるという工夫をもっと示していただきたい

○事業主体（㈱竹中工務店　秦氏）

デザインの観点から、水の表現というと川が広島市の原風景になるかと思う。個人的な考えになるかもしれないが、国際平和文化都市としての広島には、世界遺産として時間が凍結した場所がコアゾーンとしてあり、その周りのバッファゾーンとしての平和公園があり、その背景となる都市を成長させるコンテンツは、その時間の価値を高めていると理解している。中央公園に伸びる丹下さんが造った東西と南北の都市軸に対して、今回のプログラムはより垂直に新しい軸を創ろうという観点がある。広島市を大きく捉えたときに平和を感じられる場所、そして未来に向かって物を創っていく場所が市中に広く広がることもあるかと思う。インバウンド需要も考慮した施設づくりを行うこともあり、広島をより広く感じられる場所ということも考慮しつつ、平和というキーワードも忘れず、未来志向ということも考えて、よりよいものにしたい。

○今川委員

立町御門について、建物の利用者に広く立町御門があったということを、知らせる方法はないだろうか。

○事業主体（㈱朝日ビルディング　駒谷氏）

ＹＭＣＡ通りと相生通りの交差点のところに既に碑はある。建物のリーフレットなどで、

立町御門があった歴史からゲートをコンセプトとしていることなどを言い続けていきたい。

〇吉田委員

先ほど軸線の話が出たので。広島では丹下さんが最初に計画したことで有名な南北の軸線と、平和大通りの東西の軸があるが、いずれも平面的なものである。今回は１階と６階にオープンな空間があるので、何かもう一つ新たな軸を考えるきっかけになるとよいのだが。地下街ができたときにも、上下の軸を少しは意識したが、今回の空間は上下の軸が表現しやすいのではないかと個人的に感じている。8ページのパース図を見ていると、天井の水のきらめきの表現もあって、エスカレーターが水の流れにも見える。先ほどの音の話も繋がると、山からの水や上下の軸線という考え方が生まれるきっかけにもなるのではと期待している。

〇事業主体（㈱竹中工務店　秦氏）

丹下さんの軸は広島を支えてきた大切なものだと思うので、そこは尊重しながらやっていきたい。

〇髙田委員

様々な使い方をお示しいただき、本当に楽しそうな感じが伝わってきた。運用や広報なども非常によく考えられていて、このようなスペースができることをとてもうれしく思う。蛇籠（じゃかご）や水の表現については、先ほど委員の方からあった意見と同じように感じている。

6階のパークについて、多様な使い方ができるように非常にシンプルで、あまりつくり込んでいないということは理解できるが、もう少し遊び心があってもいいのではないかと思う。何か沢山物を置くとか、あまりにもつくり込むという意味ではないが、このスペース自体が遊びのデザインがある魅力的な場所になるとよい。植栽やベンチの配置など、割ときちんと整っている。この6階のスペースは、外観がシャープで直線的なものではなく、コンセプトの「パーク」ということを少し取り入れてもいいのではないか。少し起伏をつくるとか、自然な感じで。例えば、ベンチとカウンターとかでも少し曲線をつくって、他の人とも話ができるというようにしてもいいのではないか。確かに効率が悪くなる、少し邪魔になるものがでてくることもあるかもしれないが、今は想像していない使い方ができるかもしれない。

〇事業主体（㈱竹中工務店　秦氏）

おっしゃるとおり、確かに多くのものを用意すると利用を限定される、使えなくなるという懸念がある。角に少し丸みを持たすということはユニバーサルの観点でも大事だと思うので、もっと御理解いただけるように追及していきたい。

〇角倉副座長

蛇籠（じゃかご）について、吉田委員がおっしゃったデザインコンセプトみたいなことは、私も同様に感じていた。蛇籠（じゃかご）をもう少しデザインするという意味で、雁木など広島由来でいいのではないか。水と縁があるので、アイデアの変遷になるのかと思う。

一階の広場について、敷地境界線で路盤のデザインがガラッと変わってしまっているが、歩道のデザインも共通させるなど、少し境界を越えるようなデザインが、都市デザイン会議だからこそできるのではないか。境界のデザインにより人を中に引き込む工夫が考えられないか。直線的な境界で区切るのではなく、もう少し緩やかな曲線を持ったような境界のデザインを考えてもよいと思う。

緑のことであるが、8ページ目のパースよりも、全体的にもう少し緑の量を表出してもいいのでは。6階のところも同じく、全体としてもう少し緑を表出してもいいと思う。

〇事業主体（㈱竹中工務店　秦氏）

おっしゃるとおり、雁木の取り入れたデザインは、親水空間を想起させるとも。皆様から頂いた意見も踏まえてディティールの追及をしたい。

歩道との境界について、道路管理者との協議が必要でなかなか難しく、今回は再開発としても境界線をなくそうとしている趣旨はあるが、境界ができてしまうということが実際はあるが、検討したい。

緑については、建物の制約がある中ではあるが、植栽がもう少し表現できるように、樹種

も含めて、検討したい。

○角倉副座長

広島は四季が豊かであるので、四季を感じられる植栽があるとよいと思う。

○藤井委員

専門ではないので、感覚的な話となるが、蛇籠(じゃかご)が全部直線となっているが、これを曲線にすることも一つ、蛇行している川の表現となるのではないかと、高田委員の話を聞いて感じた。

雁木は面白いと思う。広島は川に雁木が沢山あるので、そういうイメージもよい。ただ、蛇籠(じゃかご)にどこかの石をいれるというのはやめたらどうか。蛇籠(じゃかご)は石を入れるものなので、どこの石を入れてもいいと思う。入れる岩を変えて色を出すとか、そういう工夫もできるのでは。あそこの敷石を砕いて入れたというのは、昔の学生運動のときを思い出してしまうので、やめてはどうかと言いたくなった。

○事業主体（㈱竹中工務店　秦氏）

検討させていただく。

○今川委員

紙屋町のブルーベリー園のブルーベリーを、このオープンテラスの端っこに植えるというのはどうか。屋上レベルでほかのビルとも呼応するという感じで、持ちかければ向こうの宣伝にもなるし、一本ぐらい譲ってくれるのではないか。

○藤井委員

広島の夏は暑いので、夏に霧を噴霧するという仕掛けはどうか。子供はすごく喜ぶと思う。

○事業主体（㈱竹中工務店　秦氏）

ここでは、いろいろな催事が想定されるので夏はミスト、冬はストーブを配置するなど、使い方も合わせて検討したい。

○田中座長

それでは、皆様から意見を頂けたと思うので、まとめをさせていただく。

前回の意見をベースに可能な範囲でできる限りの対応をしていただいたという印象である。非常に楽しそうな場所ができそうだと感じたこともあって、多様な意見が出たと思う。

一つ目は、蛇籠(じゃかご)について、利用者の足や衣服への引っかかることが無いよう、他物件の事例などを参考に注意いただきたい。積み方については、直線的ではなく柔らかさを出す、石の種類で色を出す、川の石を詰めるなど、多くのアイデアが出たので、積み方を工夫いただきたい。

二つ目は、コンセプトの一つである水の表現について、他のコンセプトの石や緑と比べると間接的な表現となっており、様々な意見があった。雁木やプロジェクションマッピング、ドライミストを用いることや、直接的な水の表現が無くとも音や光などの五感で水を感じられる仕組みができるのではないかという意見があった。個人的に五感という話では、広島の河川敷は風が気持ちいいので、風も水の表現としてうまく使えると思う。この一帯は風もよく通ると思われる。

三つ目は、コンセプトの一つである緑について、もう少し緑を表現してはどうかという意見があった。四季の違いをうまく表現する、ブルーベリーの話もあったが、緑についてもう少し強く表現してはとのことであった。個人的に市街地再開発事業の新しさの表現にもつながると思うので、緑がもう少し表現されるよう、検討いただきたい。

四つ目は、防犯対策について意見があった。施錠の管理など運用面での対策を検討いただきたい。

五つ目は、この土地の歴史性、立町御門があったことの表現について、ここに来られる多くの方に知っていただけるように、運用面での工夫を検討いただきたいという意見があった。個人的には、広場の名前に使ってみるなどの工夫ができるのではと思う。

六つ目は、新しい都市軸について、吉田委員から新しい軸のきっかけとなるポテンシャルがありそうだとの意見があった。立体的な軸をこれからの広島のまちづくりの先駆けという形で表現できるとよい。

七つ目は、敷地境界部のデザインについて、道路との境界がもう少し緩やかになるような

工夫ができないかという意見があった。行政とも調整が必要となるが、検討いただきたい。
　八つ目は、6階のパークの部分について、フラットな空間となっているが、パークと呼ばれているように、もう少し遊び心のある魅力的なデザインにしてはどうかということ意見があった。デザインの工夫をお願いしたい。
　議事⑵については以上である。

○田中座長
　それでは、本日の議事⑶「広島城三の丸歴史館新築工事について（２回目）」の説明をお願いする。
○井上施設整備担当課長
　（議事⑶「広島城三の丸歴史館新築工事について（２回目）」の説明）
○田中座長
　ただいまの説明に対して、設計方針やデザイン上の配慮事項に関するご提案やご質問等があればお願いしたい。
○今川委員
　14ページの四つの写真の右下、ピンコロ石のラインがあるが、これはどこに採用するのか。
○設計業務委託者（株式会社山下設計関西支社　小原氏）
　まだピンコロ石に決定してはいないが、広島城天守への軸の舗装に使用するイメージである。ボーダーのようなイメージパースとなっており、この軸を強調するところに採用したいと考えているが、デザインの詳細はこれからの検討である。
○角倉副座長
　平面計画について、２階のラウンジがもう少し広くなるとよい。階段を上がったところから3ｍほどの広さであり、少し狭いのではないか、もう少し広くできるとよい。限界があることであると思うので可能な限り検討いただきたい。
　12ページに「軸上の樹木の剪定・伐採」とあるが、これは植物的に駄目だから伐採するのか、もしくは眺望を得るために伐採するのか。後者の場合は違和感がある。この木は「鎮守の杜（もり）」といって神社に生育する大事な樹木ではないのか。その扱いを雑にしてほしくはない。
○木本広島城活性化担当課長
　広島護国神社の西側裏手にある樹木を「鎮守の杜（もり）」というイメージで捉えられたかと思うが、ここは護国神社の敷地ではなく、公園であり、史跡として整備していく区域である。
○角倉副座長
　ただ伐採するのではなく、樹木をどこかに植え替えるかなども、検討いただきたい。
○木本広島城活性化担当課長
　戦後に植えられた公園樹木であるが、経緯も含めて確認する。
○角倉副座長
　神社の木でなくとも長い期間あった樹木であるので、大切にしていただきたい。
○今川委員
　2階ラウンジを広くできないかとの意見があったが、階段右手側にトイレもあるので、トイレ前の空間はもう少し広くないと車いすの方が困ってしまう。吹き抜けをなくしてもいいのではないかとも思う。
○吉田委員
　9ページの北側外観のガラス以外のところについて、コンクリート打放化粧板とあるが、南側正面のルーバーとは違うデザインになるのか。
○設計業務委託者（株式会社山下設計関西支社　小原氏）
　当初は違うデザインで考えていた。南面と全く同じデザインにするつもりはないが、全体的な調和を考えると、同じものが回っていた方がよいとも感じており、検討する予定である。ただ、北側は後ろに屋外機があり、その空気が流れる開口部がどうしても必要であるため、

南側や西側と全く同じ外観にはできないが、同じ要素を持ったもので、外観を調和させるようにしたい。一般的なアルミルーバーを設置して異なるテクスチャーが立面に現れるよりは、木ルーバーとして調和させる方がいいのではないかと考え検討している。

○吉田委員

北側は、広島城の敷地内やお堀の向こう側からよく見えるのではないか。

○設計業務委託者（株式会社山下設計関西支社　小原氏）

この建物は裏がなく、いろいろな場所から全ての面が見える建物であり、機能や管理面では裏としての使い方が出てくるが、そこを裏と設定するのではなく、どの面も視点場から見える面として、各立面を調和させるような計画としたい。

○吉田委員

軸の話であるが、1階部分からは角度的に天守閣は見えないということか。どこかに1階からの写真はあったか。2階からの写真は12ページのＢであると思うが。

○設計業務委託者（株式会社山下設計関西支社　小原氏）

1階からは天守閣はほぼ見えないため、写真は資料に無い。

○吉田委員

1階からは見えないが、階段で2階に上がっていくと、階段の踊り場を過ぎた辺りから徐々に天守閣が見えてきて、上り終わったときに初めて天守閣が象徴的に見えるという視界になるということか。この階段を上がりきった2階の空間には、ロビー的な場所として、ソファなどが置かれる予定はあるか。

○設計業務委託者（株式会社山下設計関西支社　小原氏）

検討中ではあるが、先ほどのトイレの話や、エレベーターの位置もあり、この空間は広く確保する必要がある。階段を上った所に家具が置いてあり、人がいるというよりは、ぱっと視界が開け天守閣が見えたほうがいいと思うので、ここには家具は置かず、広く空間を取っておいて、東側の柱のそばに人が溜まれる、こういうスポットを置くことを考えている。

○吉田委員

見え方として、階段の中央を上り切ったところで広島城の天守と正対することは非常によいと思う。

正面の手前の床のピンコロ石については、ピンコロにこだわる必要はないと思うが、今の写真は二列だが、これは奇数にした方がよいのではないか。日本の神社や参道、橋の中央など、その辺あまり歴史は詳しくないが、中央を歩くとすると奇数の方がよいと思う。この建物に入る前に軸線を意識させた上で、中に入ったときも、もう一度軸線を思い起こさせる仕掛けが、これ見よがしにではなく小さなことでもいいので、何かあるとより伝わりやすい。

○柏尾委員

木格子について、高熱処理の木材を使うということだが、経年変化は想定されているか。

○設計業務委託者（株式会社山下設計関西支社　小原氏）

画面に映している写真は弊社の実績で、米沢の図書館・文化ホールである。この外壁の色は少し黄色みがかっているが、これは高熱処理を施した木材を使用したもので、建って5年以上経過しているが、今現状を見ても、そこまで劣化は進んでいないと確認している。当然、木材であるので色の退色や、経年変化は起きてしまうものだが、1、2年で極端に色が褪せてしまうことにはならないと考えている。使用する木材や、部材の大きさにより、状態は変わってくるため、今後の検討の中で詰めていきたい。

○柏尾委員

近年の建築、公共のものを含め、この木格子デザインというものが駅や、道の駅など、あらゆるところで採用されており、多過ぎる感じもあるが、今回の歴史館について、南側外観のパースを見るに、このライン感、寄棟の屋根との効果もあいまって非常に安定感がある、しっかりしたデザインに仕上がっているという印象である。

Park-PFI事業の建屋によって歴史館の全貌が見えないことは少し残念であるが、建物としては非常に市民に好感を与える、そういうものが出来上がったのではないかと思う。

○髙田委員

平面計画のことであるが、北面は眺めがよく、気持ちがいい景色が見えると思うが、事務

室や職員休憩室などの働いている方の執務環境を整えるという意味で、これらを眺めのいいところ配置するということにはならなかったのか。

図書閲覧室よりも多目的室のほうが北側にあるが、閲覧室は総合ガイダンス展示体験エリアとオープンなので、そことのつながりも必要だったのかもしれないが、閲覧室を北側にしても休憩コーナーとのつながりはできるのではないか。素朴に疑問である。

○設計業務委託者（株式会社山下設計関西支社　小原氏）

職員の方の執務環境について、当初北側に会議室や館長室配置するなど、外の眺めが見えるプランを何個か検討はしたが、博物館の機能として、執務環境よりも文化財をスムーズに運び２階に持っていく最短経路の動線を優先させる方が重要であるということになり、今の平面計画となっている。

○髙田委員

協議を進めて決められたことではあると思うが、このトイレと事務室、多目的室と閲覧室だけであれば反転してもあまり影響はなかったのかなとも思ったので、お聞きした。

○設計業務委託者（株式会社山下設計関西支社　小原氏）

事務室を南側に持ってきたのは、南側正面のメインエントランスの観光案内所や総合受付と事務室が連携するため、この配置としている。

○塚本委員

夜の見え方はこれからの検討か。

○設計業務委託者（株式会社山下設計関西支社　小原氏）

ライトアップされたイメージや照明がどう見えるかということか。

○塚本委員

それと、広島城がライトアップされているときの見え方などである。

○設計業務委託者（株式会社山下設計関西支社　小原氏）

まだ検討できていない。歴史館だけのライトアップではなく、三の丸エリア一帯として周辺のPark-PFI事業と併せて、夜の景観をどうしていくか検討していきたい。

○田中座長

それでは、皆様から意見を頂けたと思うので、まとめをさせていただく。

一つ目は、平面計画について、２階に上がった時の見せ方の演出やトイレとの関係を考えると、ラウンジをもう少し広くできないかという意見であった。軸線上の空間でもあるので、そこで少しゆっくりできる空間があったほうがいいのではという意見もあったので、２階の演出も含め、検討いただきたい。

二つ目は、外観のルーバーについて、各壁面、全て見られるということを意識し、ある程度統一感があるデザインとしてはどうかという意見であった。木ルーバーについては、劣化の懸念もあるので、検討いただきたい。

三つ目は、外構について、Park-PFI事業との連携や、広島城天守への軸を意識したピンコロ石配列について意見があった。

四つ目は、夜をいかに魅力的にするかということについて、大事な点であると思う。Park-PFI事業と連携し、このエリア一帯として検討いただきたい。

議事⑶については以上である。